

漢法苞徳塾資料	No. 065
区分	巻頭言
タイトル	「氣」を翻訳する時
著者	八木素萌
作成日	

漢法医学を「気の医学」とあるという言い方が、まるで「流行」であるかのように語られる場合が少なくないように見受けられる。

鍼灸を主とする小さな塾をやっているためであるか、また、私が「難経馬鹿」である故か、『素問・靈枢』『難経』を主として鍼灸医学系の古典の記述する所を講義しなければならない場合が少なくない。

「如何にツボを選定するか?」「如何に経絡を運用すれば高い治療効果が挙げられるか?」が絶えず問題になるのは、鍼灸治療家にとってもっとも臨床的な課題であり切実な実践問題であるからにほかならない。

『靈枢』九鍼十二原第 1

…所言節者 神氣之所遊行出入也 非皮肉筋骨也…

…ツボは解剖学的に微細で固定的な部位であるよりも、靈妙な氣が往来しまだ出入りする所である…

『素問』四時刺逆從論第 64

…春氣在經脈 夏氣在孫絡 長夏氣在肌肉 秋氣在皮膚 冬氣在骨髓中…

…春の季節が身体に現象しているのは経脈に現われます、夏の氣候が身体に表現されているのは孫絡にみられます、夏土用の氣候的な特質に身体が反応しているのが筋肉のところに感じられます、秋の自然の特質は身体にあっては皮膚に現われます、冬の季節の作用が身体にみられるのは骨髓の中です…

『素問』陰陽応象大論第 5

…天氣通于肺 地氣通于膻 風氣通于肝 雷氣通于心 谷氣通于脾 雨氣通于腎…

…大氣の影響力は肺の呼吸を通じて身体に取り入れられ、大地からの養いはのどを通して身体に入っていきます、万物が芽吹いて命が生き生きとしている春の様子が帯びている特質は肝の役割にみられます、イナズマや雷響やそれに伴う天氣の急変などは心の役割や生理機能に通じるものがあります。穀物の多面的な役割は身体にあっては脾の機能を介して現われます。雨に代表される水の帯びている働きは腎の役割に現象しています…

『靈樞』決気第 30

…上焦開発 宣五穀味 薰膚充身澤毛 若霧露之溉 是謂気…

…中焦受気取汁变化而赤 是謂血…壅遏榮気令無所避 是謂脈…精脱者耳聾 気脱者目不明…

…上焦の役割が開かれてその働きがおこると、五穀の養いのもとであり現われでもある味に代表されている栄養は、全身に^{のべひろ}展拡がって行きますが、それが皮膚も筋肉も毛も、などの全身の種々のあらゆる部分に、良く行き渡って、丁度霧や露などの自然の^{うるお}湿潤いが、地上の万物を潤してやっているようなものですが、それを気と謂っています。

…中焦では飲食からの栄養の精のエキスを赤く変化させます、これを血と謂います。榮気とされているものが漏れ出ないようにシッカリと防ぎとどめているものを脈と謂います。精 {気血の生理機能の中でも最も基本的な働きを担っている重要なものの意味に用いている} が脱けている時には耳聾しますし、気 {働き・作用・作用させる機構・作用させる力・仕組み・影響力・伝播させている機構・アルゴリズム・信号・波及力・波動性・気体成分およびその機能——など等の何れかの意味に用いられている——此处では、波及力と訳して置く} が脱ければ目は見えなくなります…

『素問』経脈別論第 21

…食気入胃 散精于肝 淫気于筋……脈気流経 経気归于肺 肺朝百脈 輸精于皮毛 毛脈合精 行気於府 府精神明……

…食物が胃に入ると、食物の精は肝にしみ入って、その食物の精の作用は肝を介することによって筋の機能となって行きます。気于心がつかさどっている血脈の機能が経脈に及んでその作用力となります。その経脈の機能は呼吸を主っている肺に機能に帰着します。こうして、肺には身体全ての経脈の機能装置と影響の波及力が由来します。そして、精妙な力を皮毛の分にとどけます。そして更にその皮毛の分では血脈の精妙な力と統合した精妙な力にしまして、その作用力を府〈解釈には膻中説と六腑説がある〉に^{めぐ}行らせます……

註——膻中説を採用すれば、まるで、現代の免疫学の胸腺と皮膚のケラチノサイトに関する説が、記述されているかの如くである。食物から摂取された栄養成分が血となり精となって膻中〈胸腺の所在する部位に他ならない〉から身体に作用している、その際に皮膚のケラチノサイトが免疫細胞の最終的で完全な成熟にとって、もっとも重要なものとなっているが、このことを 2000 年前に把握していたかのようである。

『素問』六節藏象論第9

…五氣更立 各有所勝 盛虚之變此其常也…

…自然の気配は気候として五行の性質を現わし、五行のそれぞれが主役を担う時があります。季節は交互に入れ替わって行きます。そして、それぞれの行には優利な位置になる行があるものです。そう言う五行は、虚したり、また、実ったりして行きます、このような変化を常態としているものです、そう言った変化をしていると言うのが五行というもののなのです。…

☆『中日英医学用語辞典』にある「気」の部分を見ると次ぎのように記述している。

「鍼灸治療は鍼灸医学に基づく他は無い」から、漢法医学の古典の記述を研究して臨床に用いるようにしなければならないのであるが、古漢語は字義が多義的